

# リレートーク



**林野 宏氏**  
クレディセゾン 取締役社長



紹介者  
**尾原 蓉子氏**  
IFI（ファッション産業人材育成機構）  
IFIB（ビジネス・スクール）  
名誉学長

## バブルと覇権のマーケティング

#143

米国のサブプライムローンに端を発したとされるバブル崩壊は金融恐慌（資金収縮・供給過剰・消費不振）となって全世界に波及しつつあり、それは実体経済を巻き込んで厳しい状況を呈している。しかし、回復は思ったより早いはずである。

そこでバブル崩壊を世界史の中で、覇権の移行のキーワードとして眺めてみると面白いことに気が付く。つまりバブルのマーケティングである。

バブルの解明についてはガルブレイス氏の著作に譲るとして、歴史上最初のバブルは1630年代の、かの有名なオランダのチューリップ・球根の出来事である。スペインから独立して僅か30年余りのオランダにバブルが発生。その後世界の覇権はオランダに移り17世紀はオランダの世紀となった。

次に1720年、フランスの「ルイジアナ金鉱採掘権保有」のミシシッピ会社が投機の対象となりバブルが発生。これが崩壊した。そして18世紀はフランスの世紀となった。

更に1840年代、英国の鉄道株がバブルの対象となり、19世紀は英国の世紀となった。

言うまでもなく1929年米国の株式が大暴落に見舞われ、世界恐慌に陥ることになる。しかし20世紀は米国の世紀であることに異存はないのではないか。

つまるところバブルの発生した国に覇権が移ることを歴史は証明している。

1989年我が国にバブルが発生した。世界経済への影響力は軽微であった為、この島国の中で「失われた10年」と言われたが、まさか2008年に更に大きな津波が来るとは信じられない。21世紀は日本の世紀であるはずであった。私はひそかにほくそ笑んでいたし、銀行も企業も個人もバブルを経験したことによって、財務内容の健全化に邁進せざるを得なかった。その効果は20世紀とは様変わりの様相を呈した。

しかし21世紀も米国の世紀なのか。近代史の中では2世紀に亘って覇権を握った国は存在しない。

21世紀はアジアの世紀であると確信しているが、それを私自身が確認することはできない。日本にもその可能性はあるし、文明のポテンシャルは間違いなく太平洋を渡ってアジアにやってくる。日本の国家戦略に、壮大な夢を描くべきである。

グリーンズパン氏の100年に一度とは、こう言うことなのではないだろうか。

次回は **大江 匡氏**（プランテックアソシエイツ 取締役会長兼社長）にご登場いただきます。